

初等小學文章讀本

戸川新太郎編

六

T1A1  
10  
(T022)





戸川新太郎編

一級用本

# 初小學文章讀本卷六

明治十五年六月出版

文榮堂

初等小學文章讀本卷之六目錄并凡例 一級用本

近體文第五

記 十一題 廿九首

同第六

論 十一題 廿五首  
說 五題 五首

日用文第二

往復雜式續  
三十七題 七十首

同附錄

電信書類  
廿八題 三十三首

記文前ノ續キヲ載ス、語益雅馴ナルヲ擇ブ、末ニ  
三首、市街ヲ記スノ法ヲ示シ、游記ニ入ル基礎トス、  
論文前ノ續キヲ載ス、漸ク高尚ニ向ス、  
說ハ大略論ト同シ、但論ハ直ニ其事物ヲ論ジ  
說ノ如キハ、多ク諸物ノ上ニテ、人事ヲ論ズ、本文  
ヲ見テ、其差別ヲ知ルベシ、

日用文ハ、前ノ續キニテ、漸ク長ク、漸ク高尚ナルヲ



電信文ハ便ニヨリ、此ニ附録ス、此文二十字ヲ、二音信トス、廿五字、三十字ト、字多キ程、價ヨ益ス故、減ズル上ニモ減ズベシ、濁字ハ、二字ト爲ル故、務メテサクベシ、字ハ音便ヲ嫌ハス、但ク解シ易キヲ、主トスベシ、否サレハ、往々間違出來ルナリ、

教授大略

記事論説、肩文中、宋名勝神社佛閣名、諸書通シ著者住所近傍地名ヲ舉ク、此書亦多然リ之ヲ教フル宜シク斟酌スベシ

益題ヲ與ヘ、自ラ作り習ハシムベシ、○前三四五卷ノ文ヲ、時々空ニ書サシムベシ、○日用文、徐々題ヲ與ヘ、作り習ハシムベシ、又前口上書類ヲ、空ニ書シムベシ、○電信、字ヲ減ズル法ヲ、悟ラシムヘシ、

初等小學文章讀本卷之六

浪華 戸川新太郎 編

近體文第五 記

櫻ヲ記ス

櫻ハ、日本第一ノ花ニシテ、其色淡紅艷麗、能ク人目ヲ悦ハシム、

櫻ハ、四月、花開キ、八重一重等、種々アリ、共ニ美麗ナリ、此花支那ニ有ルナシ、

予ガ家、櫻ノ木アリ、毎春花ヲ開ク、爛熳タル雲ノ

如シ、園中桃李、一モ其艷麗ニ及ブ者ナシ、

菊ヲ記ス

菊ハ、四月頃、苗ヲ生ジ、十月頃ヨリ、花開ク、黃、白、紅、  
等、種々ノ花アリ、秋草ノ冠タル者ナリ、  
菊ハ、花中ノ隱君子ニシテ、其花秋晚ニ開ク、色ハ  
種々アレド、黃、白ヲ最トス、幽香亦愛スベシ、  
菊ハ、秋草ノ中ニモ、最モ霜雪ニ耐フル、花ニシテ、  
歲晚ニ秀色ヲ凝ス、昔シ陶淵明ノ愛セシモ、亦宜  
ナルカナ、

萩ヲ記ス

萩ハ、八月ヨリ開キテ、九月ニ至ル、其花細小ニシ

テ、枝ニ綴リ開ク、枝ハ柔弱ニシテ、嫩柳ノ如シ、  
萩ハ、秋草ノ一種ニシテ、枝柔ク、葉小サク、地ニ垂  
レテ、嬋々タリ、其花細ニシテ、紅、白ノ二種アリ、月  
前之ヲ觀ル、頗ル幽趣ヲ添フ、

萩ハ、幽艶ノ花ニシテ、秋郊ニ多シ、花葉枝ニ綴ル、  
其狀瓔珞ノ如シ、中秋ノ夜、薄ト共ニ、之ヲ瓶中ニ  
挿シ、月ニ供スルヲ、皆能ク世人ノ知ル所ナリ、

犬ノ記

犬ハ、人家ニ畜フ獸ニシテ、能ク人ニ馴レ、恩ヲ記  
シテ忘レス、且夜ヲ守ルノ能アル者ナリ、

犬ハ、獸類ニシテ、猫ヨリ大キク、且猛ナリ、然レモ、能ク人ニ馴ツキ、其使令ニ供ス、獵犬ノ如キハ、常ニ山中ニ入り、猛獸ヲ驅逐ス、其效最大ナリ、余、西洋ノ犬ヲ見シガ、其狀、和犬ヨリ大ニシテ、能ク人意ヲ解シ、使令ニ供ス、僮僕ノ如シ、其毛色、茶黒ニシテ、卷キ縮ミ、頗フル畏ロシ、

### 猿ノ記

猿ハ、獸類ニシテ、四ノ手アリ、其狀頗ブル人ニ似テ小ナリ、面ト尻ハ、色赤シ、性殊ニ噪シキモノナリ、猿ハ、山中ニ棲ム、獸ノ一種ニシテ、狀二三歳小兒

ノ如シ、人、之ヲ畜ヒ養ヒ、舞ヲ教フ、頗ブル妙ナリ、

### 舟ヲ記ス

舟ハ、木ヲ以テ、之ヲ製ス、大小長短、形千一ナラズ、皆能ク人物ヲ載セテ、江海ニ浮ブモノナリ、舟ハ、形長クシテ狭シ側アリ、底アリ、又家根ノアルアリ、共ニ木ニテ造ル、人及ヒ荷物ヲ載セ、川又ハ海ヲ渡ル、功用最モ大ナリ、

舟ノ最巨大ニシテ、功用ノ最利ナルハ、蒸氣船ナリ、此ハ蒸氣ノ力ヲ以テ、機械ヲ運轉ス、其行極メテ神速ナリ、其精工ナル、筆墨ノ及ブ所ニ非ズ、

車ノ記

車ハ、人物ヲ載セテ、陸地ヲ走ル、其世ニ利益アル、  
全ク舟ニ同シ、扱其要ハ、軸ト兩輪ニ在ルナリ、  
車ハ、一ノ心木アリテ、兩輪ヲ貫ヌク、其中間ニ、板  
ヲ安ジ、之ニ荷物ヲ載セ、牛馬又ハ、人ニ之ヲ挽カ  
シム、兩輪輾轉進行ス、其利用亦大ナリ、  
車ノ神速ナルハ、蒸氣車ヲ極トス、其狀首ノ一箱  
ニ、機械ヲ裝シ、之ニ數十ノ箱ヲ挽カシメ、鐵道ヲ  
走ル、遠ク之ヲ望ム、蜿蜒トシテ、龍ノ行クカ如シ、

燭臺ヲ記ス

燭臺ハ、真鍮、唐銅、及ヒ竹木、陶器ニテ作ル、其形狀  
一ナラズ、蠟燭ヲ立テ、之ニ火ヲ點シ、居間ヲ照ス、  
燭臺ハ、蠟燭立ノトニシテ、竹又木、其他金物、燒物、  
種々ノ製アリ、其狀一ノ柱ヲ立テ、之ヲ皿ニテ受  
ケ、倒レザラシム、若シ皿十ケレバ足アリ、

盥ヲ記ス

盥ハ、木ニテ作ル、其狀圓シ、桶ヨリハ大ニシテ、淺  
シ、衣服ヲ洗濯スルニ、用フル具ナリ、  
盥ハ、側ノ外ヲ、竹ノ輪ニテ固メ、之ニ底ヲ入レタ  
リ、或ハ衣服ヲ洗ヒ、或ハ行水ヲ爲ス、其用廣シ、

橋ノ記

橋ハ、木ニテ作ル又石橋、土橋、鐵橋アリ、何レモ、河ノ上ニ掛渡シテ、人馬ノ往來ヲ通スルモノナリ、予浪花橋ヲ通リシガ、此橋ハ、鐵橋ニシテ、大川ニ掛レリ、一橋渡リ終レバ、又一橋アリ、北ハ、南ヨリ長シ、此橋、木ハ木製ナリシガ、近來ニ至リ、改レリ、

町ノ記

予道頓堀ヲ游行セシガ、此間ハ、劇場、見世物等アリテ、見物ノ人、千百群ヲ成ス、實ニ大阪中第一繁昌ノ地ナルヲ知レリ、

心齋橋通りハ、大阪市中ニ在リテ、頗ル商家ノ淵藪ナリ、中ニモ書林最トモ多シ、故ニ吾常ニ好デ此ニ至リ、本ヲ買テ、歸ルナリ、

予一日、用事アリテ、道修町ヲ過グ、數町ノ間、兩側盡ク藥種商ナリ、予其盛大ニ驚ク、偶一陣ノ芳薰、風ニ隨テ、衣袖ヲ襲フ、之ヲ問ヘハ、金ク麝香ノ香ヒナリト云ヘリ、

近體文第六 論 說

地ノ論

地ハ平カナル様ニ見ユレ氏其實ハ圓クシテ橙  
ノ如ク表面凸凹アリ其凸キ處ハ陸ニシテ其凹  
キ處ハ海ナリ  
地ハ一ノ游星ニシテ其體圓ク晝夜轉ジテ息マ  
ズ吾人ハ其表面ニ住スル故ニ其全體ヲ見ル  
能ハザルナリ  
地ハ萬物ヲ載スルモノニシテ其體水ト陸トヲ  
以テ成レリ其比較ヲ論ズレバ水ハ陸ヨリモ三  
倍ノ多キニ居レリ

### 水ノ論

水ハ地上ニ在リテハ河海トナリ天ニ外リテハ  
雨雪ト爲ル能ク萬物ヲ滋養スルノ功アリ其世  
界ヲ利スルヲ舉テ數ヘガタシ  
水ハ江湖海洋ノ總名ニシテ常ニ地上ニ流動ス  
人生一日モ水ナケレバ其命ヲ保ツ能ハズ其恩  
ノ大ナル人其レ知ラザルベケンヤ

### 陸ノ論

陸ナル者ハ地面ノ凸處ニシテ土石ノ水上ニ出  
タル稱ナリ世界陸地大別シテ三アリ三大陸ト  
云フ又之ヲ分テ五大洲ト爲ルナリ



陸ハ土地ノ水面ニ現ハレタル者ニシテ人物草木ノ類ヲ載ス此物地上ニ三アリ其一ハ南方ニ位シ其二ハ北方ニ並ベリ各大小不同アリ

### 山ノ論

山ハ陸地ノ高く突出タル者ニシテ其高低大小一ナラズ其名稱亦隨テ異ナリ我日本ニテハ富士山ヲ以テ第一ト爲スナリ  
山ハ高く地上ニ聳ヘテ人ノ仰ギ見ル所ナリ然レ氏山ノ貴ブベキハ高キニ在ラズシテ能ク草木ヲ育シ金玉ヲ出スニ在ルナリ

山ハ高シ秀ヅルモアリ横ニ連テリ列ブモアリテ其狀一トラズ又一種頂ヨリ火煙ヲ吹出スモノアリ火山ト謂フ淺間山ノ如キ是レナリ

### 川ヲ論ス

川ハ地中ヲ流ル水ニシテ深キモアリ亦淺キモアリ大川モアリ小川モアリ大阪ハ殊ニ此川人多キ所ナリ

川ハ山中ニ水源アリテ其ヨリ流レ來ルモアリ又湖水ノ溢レ出テ川トナルモアリ其廣狹淺深モ亦齊シカラズ大阪ノ諸川ヲ見テ知ルベシ

都府ヲ論ス

都府ハ東京、西京、及ヒ大阪ノ如キ者ヲ謂フ、總  
テ都府ハ國王ノ居住スルカ、或ハ古ヘ帝王ノ居  
住セシ所ニシテ、人民富饒、家屋稠密ナリ

都府ハ天子ノ居給フ所ニシテ、東京ノ類、是ナリ、  
此處ハ國中最モ緊要ノ地ニシテ、土地ノ美、物貨  
ノ富、人材ノ盛、四方邊邑ノ及ブベキ所ニアラズ

村郊ヲ論ス

村ハ野中ニ在リテ、多ク農人ノ住居スル所ナリ、郊ハ  
城外平野ノ間ヲ謂フ、此處ハ常ニ牛馬ノ類ヲ牧

養スルニ妙ナリトス

村ハ百姓ノ住居スル處ニシテ、田野ノ間ニ在リ、  
其人家多ク、藁茅ノ類ヲ以テ葺キ、都府家屋ノ奢  
麗ニ及バズ、郊ハ平原野外ノ通稱ナリ

人物ノ論

世界中、人物多シト雖モ、約シテ云ヘバ、五種ニ過  
ギズ、亞細亞人種、歐羅巴人種、馬來由人種、亞米利  
加人種、亞弗利加人種、是ナリ、日本人ハ亞細亞人  
種ノ中ナリ

人ハ萬物ノ中ニ在リテモ、知識廣大ニシテ、尤寶

ナル者ナリ、人ニシテ、知識ナキハ、禽獸ニ劣ルナリ、故ニ人ハ、學問シテ、知識ヲ開カザルベカラズ、人ニ賢愚アリ、賢者ハ愚者ヲ教ヘ、愚者ハ賢者ニ、學ビテ可ナリ、若シ愚者、其愚ヲ甘ジテ、學バズ、賢者、其賢ニ誇リテ、教ヘザレバ、竟ニ其身ヲ傷ス、

### 普通學論

人ノ業ニハ、種々アリテ、其學ブベキ所、各異ナリ、然レ氏、先ツ書ヲ讀ミ、字ヲ寫シ、物ヲ數フルヲ、學ブヲ、第一ノ務トス、是ヲ普通學ト云ナリ、普通學ハ、子弟通ジテ、學ブ所ノ學問ナリ、其學科、

多シト雖トモ、修身、讀書、習字、算術、ノ四ノ者ヲ以テ、最トモ、主要ト爲ルナリ、

### 小學校論

小學校ハ、滿六歳ヨリ、十餘歳ニ至ルノ、小兒ニ、普通學科ヲ、教ユル所ニシテ、學校ノ中ニ於テモ、尤モ、簡易淺近ナル所ナリ、

小學校ハ、學校中ニ於テ、極メテ、近小ノ者ヲ、教ユル所ニシテ、士農工商ノ子弟、共ニ普ク通ジテ、學ブベキトユロナリ、

### 游歩ノ益ヲ論ス



游歩ハ、勉強ヲ助ケテ、人ニ益アリ、凡ソ人ノ心、餘  
リ用ヒ過グレバ、病ヲ生ズ、游歩ハ、身ヲ動カシ、心  
ヲ慰ム、故ニ勉強ノ後ハ、必ス爲スベキ者ナリ、  
游歩ハ、氣血ヲ運ラシ、心目ヲ樂マシム、甚ダ益ア  
リ、然レ氏、勉強ニ、心ヲ用ヒ、氣ヲ屈セシ後、之ヲ爲  
ス、更ニ益アリ、但游樂ノミニテハ、却テ害ヲ起ス、

鶯ト雀トノ説

雀ト鶯ハ、同ジク小鳥ニテ、善ク唄ヅル者ナリ、然  
レ氏、鶯ハ、人ノ之ヲ愛シ、雀ハ、愛セズ、其故何ゾヤ、聲  
ニ美惡アルナリ、小兒モ亦然リ、鑑ミガルベカラ

ズ、

鵜ノ真似ヲ爲ル鳥ノ説

鵜ノ形色、極メテ鳥ニ似タリ、性能ク水ニ入り、魚  
ヲ啣ム、鳥見テ之ヲ羨ミ、其真似ヲ爲シ、水ニ溺レ  
テ死ス、是レ其性ノ異ナルヲ、知ラサル故ナリ、

猿ノ尻笑ヒノ説

昔シ、甲乙二匹ノ猿アリ、甲猿乙猿ノ尻ノ赤キヲ  
見テ、大ニ笑フ、乙猿亦甲猿ノ尻ヲ見テ、其赤キヲ  
笑フ、終ニ相互ニ笑フテ休マズ、今ノ人此猿ニ類  
スル多シ、然レ氏、省ミルヲ知ラズ、何ゾヤ、

蟻ノ穴ヨリ堤ガ崩レル説

夫レ蟻ノ穴ハ至テ小ナリ、堤ハ至テ大ナリ、然レ  
氏水蟻穴ヨリ入り、終ニ堤ヲ崩ス、人モ小事ヲ慎  
マザレバ、終ニ大事ヲ敗ルモノナリ

水ハ方圓ノ器ニ從フ説

水ハ本一定ノ形ナシ、故ニ桶ニ入レバ、圓トナリ、  
箱ニ入レバ、方トナル、人モ亦然リ、善人ニ交レバ  
善トナリ、惡人ト交レバ、惡ト爲ル、慎マザルベケ  
ンヤ

日用文第二 往復雜式

年酒ニ人ヲ招ク文

其ノ七日例年ノ通、年酒仕込、此ノ既、是ノ年酒、  
此ノ光、其ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、  
此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、

此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、  
此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、  
此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、

同返事

其ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、  
此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、  
此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、此ノ光、

何事もあらずと云ふ瑞可く附ひねね  
は程もは光来と云ふ何風情やと云ふ評語は相のり  
は子海陽と云ふ趣と云ふ信やと云ふ伏見は地陪席と云ふ  
紙鳶ヲ贈ル文  
は残さる人かといひはかばか知通と云ふれいごと二言者  
し故も君は進ぶ様しは快く話のりては成ひ  
時より母もいと云ふ物と云ふりしは云々君と云ふれは人成者  
を求ぬといふも麻事といひは開き中といひは云々時より  
世とのりといふもみりし

同禮狀

おより、云々いふ中も結構なり残さる人かといふも麻事といひは開き中といひは云々時より  
世とのりといふもみりし  
母持のり云々いふ中も結構なり残さる人かといふも麻事といひは開き中といひは云々時より  
世とのりといふもみりし  
母持のり云々いふ中も結構なり残さる人かといふも麻事といひは開き中といひは云々時より  
世とのりといふもみりし

嵐山花候ヲ問ノ文

是の候は云々いふ中も結構なり残さる人かといふも麻事といひは開き中といひは云々時より  
世とのりといふもみりし  
母持のり云々いふ中も結構なり残さる人かといふも麻事といひは開き中といひは云々時より  
世とのりといふもみりし  
母持のり云々いふ中も結構なり残さる人かといふも麻事といひは開き中といひは云々時より  
世とのりといふもみりし



市子に於て候氣事にお加ひし事より凡そ花候の  
ついでに宜くお加ひし候事聞合はれりとの事

同答書

花候事、貴細事承知し、凡そ花候し人同合  
事、本年より四月中迄より、花候し、  
易き花候し、花候し、花候し、  
凡そ花候し、花候し、花候し、  
凡そ花候し、花候し、花候し、  
凡そ花候し、花候し、花候し、  
凡そ花候し、花候し、花候し、

農具ヲ詠ヘル文

至耕化の時、  
新調、  
凡そ、  
凡そ、  
凡そ、  
凡そ、  
凡そ、  
凡そ、

同返事

農作、  
凡そ、  
凡そ、  
凡そ、  
凡そ、  
凡そ、  
凡そ、  
凡そ、







今の事、級は正邪に、  
下等、正邪に、  
毎、正邪に、  
正邪に、  
正邪に、

田植二人ノ頼ム文

雨、水、  
雨、水、  
雨、水、  
雨、水、  
雨、水、

同返事

雨、水、  
雨、水、  
雨、水、  
雨、水、  
雨、水、

神事二人ノ招ク文

雨、水、  
雨、水、  
雨、水、  
雨、水、  
雨、水、



法は非はあつらあきふ何七何といふあゝぞん  
トそきうやーひあひくトー

讀書ヲ勸ムル文

杜源おぼへて清き好時言ふおぼえより自ら若病  
言は金快ふふ言ふは勉學の故うきとを勉學  
る修業の時ふふ勉學の故うきとを勉學  
おぼえより清き好時言ふおぼえより自ら若病  
おぼえより清き好時言ふおぼえより自ら若病  
おぼえより清き好時言ふおぼえより自ら若病

同返書

法能事なりふ言ふを勉學の故うきとを勉學  
あるあふ某先生入門の故うきとを勉學

法能事なりふ言ふを勉學の故うきとを勉學  
あるあふ某先生入門の故うきとを勉學

西瓜ヲ送ル文

はあふ市園新田の産せし由実味を試みまふ  
あふ市園新田の産せし由実味を試みまふ  
あふ市園新田の産せし由実味を試みまふ  
あふ市園新田の産せし由実味を試みまふ  
あふ市園新田の産せし由実味を試みまふ



卷一

文苑英華

舊重陽菊見ヲ誘フ文

舊重陽菊見ヲ誘フ文

周之遠通 兒之病必由受毒之故因之東極區

周之遠通 兒之病必由受毒之故因之東坡氏

天長節書畫會ヲ報スル文

天長節書畫會ヲ報スル文

唐詩正統卷之六

同答書

如來余今日我 天皇陛下、生德、自、て、地  
久、お、祝、い、ま、う、は、お、祝、い、の、雅、會、本、の、生、合、い、而、信、席  
と、余、お、祝、推、來、を、合、貴、祝、い、は、お、祝、い、

茶會之後礼二遣入書

過、い、は、禮、推、來、を、合、貴、祝、い、は、お、祝、い、  
辱、を、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、  
時、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、  
預、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、

唐詩正統卷之六

同返事

五、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、  
時、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、  
時、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、  
時、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、

雪見二席ヲ借ル丈

時、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、  
不、合、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、  
去、親、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、は、お、祝、い、

物事一々地味に言ひし因りて急不備なるが如  
以は言ひし言ひは急なるに備へたるは急なるが如

同返事

中務ふらね事一々言ひし言ひは急なるが如  
物事一々地味に言ひし因りて急不備なるが如  
以は言ひし言ひは急なるに備へたるは急なるが如

火災ヲ見舞フ文

火災一々言ひし言ひは急なるに備へたるは急なるが如

物事一々地味に言ひし因りて急不備なるが如  
以は言ひし言ひは急なるに備へたるは急なるが如

歳暮人ヲ問フ文

物事一々地味に言ひし因りて急不備なるが如  
以は言ひし言ひは急なるに備へたるは急なるが如



ドル相場ヲ問フ文

ドル、ソウバ、デニンシンデ、ハヨ、シラセ、

同答

ドル、ヨリツキ、(一六七五)、イマ、(一六九)、ニンキ、カヒ、  
ス、ミ、

石油ヲ買フ文

セキユ、ナニホド、ハヨ、ダセ、カネ、スグヲクル、

同返事

セキユ、ナニホド、ダシタ、ウケトラレヨ、

米ノ買ヲ勸ムル文

コメ、イクラナラ、ナニホドカヘ、

同賣ヲ勸ムル文

コメ、ナンエ、ン、ナンセン、ナラ、ミナ、ウリテ、シマヘ、

出船ヲ問合ス文

ナニナニマル、イツデル、スグシラセ、

同答

ナニナニマル、イツ、ナンド、イヅル、

荷物ヲ催促スル文

ニモツ、イソグ、ハヨ、オコサレヨ、

荷出ヲ報スル文



二モツ、イマダシタ、ウケトラレヨ、

賣込ヲ告ル文

子ヤ、ナニホド、キン、ナンエシデ、ウル、

買込ヲ告ル文

キン、ナンエシデ、トウ子リメン、ナンボ、カウ、

遠方ノ親へ母ノ安産ヲ告ル文

ハ、コンケウ、アンサン、ヲトコ、ウマル、アトヨシ、

游學ノ兄へ父ノ大病ヲ知ラス文

子、タイビヤウ、ハヤク、オカヘリナサレ、

遠方ノ人へ客ノ來ルヲ告ル文

タレソレ、カイモノニ、キテ、マツ、ハヤク、オカヘリ、

旅中ノ變ニ逢ヒ國元へシラス文 三休

キウビヤウ、ヲコル、ハヤク、ムカヘ、オコセ、

カネ、ナンエシ、バヨ、オコセ、イサイハ、ユウビン、

ヘシガ、デケタ、タレソレ、バヨ、ヲコセ、

旅中到着ヲ知ラス文

コンニチ、ゴノチヘ、ブジニ、ツク、アンシンセ、

同出立ヲ知ラス文

コンセキ、ゴノチ、デル、ツイ、カエル、ヨウイ、セヨ、

裁判ノ勝負ヲ問フ文

コンニチ、サイバン、ツガウ、キカセ、

同返事

ケウ、サイバン、カチヲ、エタ、アンシンセヨ、

歸宅延引ヲ報スル文

ハライタ、ヲコル、ケウ、カエレン、ゴノムネ、シラス、

脱走人ヲ知ラス文 ニ体

タレソレ、サクヤニゲタ、ソノチ、ユク、ステオケ、

タレソレ、カネモチ、ニゲタ、イタラ、トメヨ、

同返事

タレソレ、ギタ、トメオク、ハヨ、ムカヘ、オコセ、

タレソレ、イドコロ、シレタ、ワケハ、アトカラ、

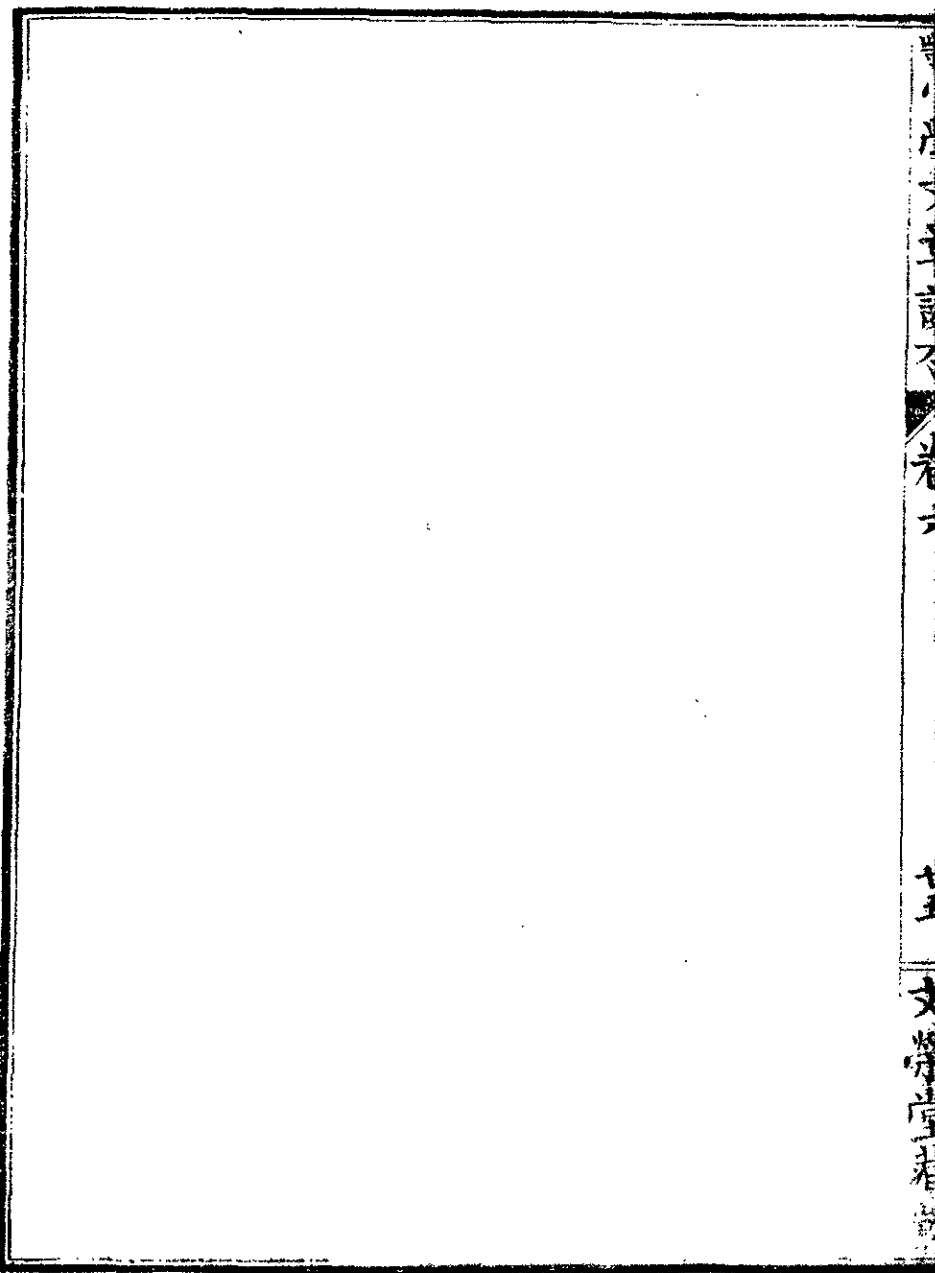
火災ヲ知ラス文

ケウ、ナンヂ、イヘ、ヤケタ、ヒトノケガハ、ナシ、

死去ヲ告クル文

タレソレ、シキヨ、セリ、コノダン、シラス、

初等小學文章讀本卷之六 大尾



明治十五年五月十八日 版權免許  
同 六月 開版發行

編輯人 大阪北區絹笠  
町上貳番地 戸川新太郎

出版人 大阪東區南久寶  
寺町四丁目八番地 前川善兵衛

三府發賣書肆

東京 市中兵衛	東京 牧野善兵衛	東京 須原鐵二	東京 吉川半七
大阪 佐々木惣四郎	大阪 松邨九兵衛	大阪 岡田茂兵衛	大阪 中尾新助
京都 柳原喜兵衛	京都 吉岡平助	京都 前川宗七	